

出谷



十津川村の南西部に位置する西川区には、西川と上湯川があって、合流して十津川へと流れ込みます。迫西川流域には八つの大字があり、川沿いの国道 425 号の峠「牛廻峠」を越えると和歌山県龍神村へ入っていきます。他方、上湯川の流域には二大字あり、うち一つが出谷です。

川沿いの県道はその先で「引牛峠」を越え、これも龍神村へとつながっています。この二つの峠は、通る車があまりないと言われるほどの難所で、牛とともに峻険な峠を越えていた昔の人々の労苦が偲ばれる地名です。

出谷の盆踊りは 8 月 13 日に開催されますが、昔は広い敷地のある人の家々を回って踊っていたとのこと。一時期に 15 日になったことがありますが、西川区と踊り手の取り合いになるということで、13 日に戻されました。13 日出谷、14 日平谷、15 日西川という順番が今ではこれらの地区で定着しています。

これは言い伝えですが、西川の大踊は出谷から教わったとの話が残っています。これは、西川区の人も承知しているようですが、はっきりとした証拠はありません。現在では、西川区が大踊の本場とされていますが、かつては、それだけではない分布が十津川村にはあったということです。確かに、出谷の盆踊りは豊かな伝統を持っていて、2003 年（平成 15）に収録された動画では 36 曲が収められています。しかも各曲を誰が踊るのかということは予め決めておらず、収録当日に保存会長から伝えられたのです。いかに出谷の人々が真剣に練習し、伝承しようとしていたかをうかがわせるエピソードです。

民俗芸能の継承にはコミュニティの理解や参加が必要ですが、時にキーパーソンが発展に大きな貢献をします。衰退傾向の出谷の盆踊りを救ったのは千葉孝さん（平成 19 年没）です。千葉さんは元は筏師で、のちに村会議員を務めました。証言では、1960 年代には盆踊りはやっていなかったとのことですが、音頭取りで踊りが大好きな千葉さんが子どもたちに教え始めて復活ののろしをあげたそうです。千葉さんの尽力で 1998 年（平成 10）には「川掘り節」と「出谷筏節」が村指定の無形文化財になりました。

音頭取りの養成が急務で、継承者が育つまでは平谷の音頭取り・佐古金一さんに本番での音頭をお願いしています。（中川）



出谷

撮影：田花三巖



出谷

撮影：田花三蔵



出谷

撮影：佐古金一